



Governor's Monthly Letter

Vol. **4**
2016年10月号



2016-17年度 国際ロータリー
第2710地区 ガバナー

田原 榮一

GOVERNOR: Eiichi Tahara
HIROSHIMA CENTER
ROTARY CLUB

「経済と地域社会の発展月間、 米山月間と世界ポリオデー」

10月は、「職業奉仕月間」から「経済と地域社会の発展月間」となりました。

世界で、14億人(その半数近くは職を持っているにもかかわらず)が、1日1ドル25セント以下の生活費で暮らしています。そこで、ロータリーは、人々の生活と地域社会の経済に、見通しがきき、末長い発展をもたらす投資を支援します。この重点分野の目的と目標は、次の4つが掲げられています。

1. 貧しい地域社会の経済発展を促すための、起業家、地域社会のリーダー、地元団体、地域社会ネットワークの能力の向上
2. 生産性の高い仕事の機会の創出
3. 支援が行き届いていない地域社会での貧困の削減
4. 経済と地域社会の発展に関連した仕事で活躍していくことを指す専門職業人のための奨学金支援

具体的には、収入源と預金のために、地域単位で融資が提供され、金融インフラが整うよう、地元の小口融通機関と提携し、モバイル・バンキング(携帯電話を利用した銀行業務)の開発を推進する。更に、雇用機会の創出と起業の支援のために、組合員に対して研修、合併事業、資産の所有権を提供している協同組合と提携する。発展途上の地域社会のビジネスのリーダーに、ビジネスプランの作り方や正確な会計を維持する方法を教える職業研修チーム(VTT)を派遣する。地元経済の生

産性と販売力を高めるため、協同組合に機材や物資を提供する。そして、地元の非営利団体における職業研修の機会を充実させる等が奨励されています。

わが地区での各クラブの事業家が、貧しい地域社会の経済発展のために、職業スキルを生かして、上記具体的な支援に取り組んで頂けることを推奨します。

また、10月は、米山月間であり、日本独自の強調月間です。クラブはこの月に特に米山奨学事業の意義を深く認識し、寄付金を募る活動を行います。全国のロータリアンからの寄付金を財源とするロータリー米山記念奨学会は、日本の大学、大学院で学ぶ外国留学生に対して奨学金を支給しています。しかし、最近、全国のロータリアンからの寄付金額の低下により、年間の奨学生採用数が減少しています。当地区でも2012年の27名から2013年22名へと5名の減です。事業費は約14億で、日本最大の奨学事業であり、RIから認証された日本ロータリー独自の多地域合同奉仕活動です。

現在、米山記念奨学生は、日本と彼らの母国との架け橋となる「平和大使」として活躍しており、今後の国際親善と世界平和に貢献することは間違いありません。また、米山校友会が国内に31、海外に6あり、学友は世界につながる「平和の人垣」として活躍しています。因みに、我が地区の2016学年奨学生は22名(中国10名、ベトナム6名、韓国3名、タイ1名、ネパール1名、バングラデシュ1名)でした。

最後に、10月24日は、「世界ポリオデー」です。RI会長ジョン・ジャーム氏の最優先目標は、ポリオ撲滅であり、2018年にはその撲滅宣言を目指しています。2016年1月から4月までの野生株によるポリオ症例数が世界合計11例(パキスタン8例、アフガニスタン3例)です。そこで、この日の前後に、我が地区挙げてポリオ撲滅キャンペーンを展開しようではありませんか!因みに、2015-16年度世界全体で410万ドル、日本から71万7千ドルのDDFをポリオ基金へ寄贈しました。

contents

[ガバナー月信2016年10月号]

[地区指導者育成セミナー報告]

ガバナーメッセージ	1
「経済と地域社会の発展」月間に思う	2
米山月間に寄せて	2
米山研修旅行報告①	3
米山研修旅行報告②	3
第40回インターアクト地区大会報告	4

地区代表幹事	5
会員増強部門	5~6
ロータリー財団部門	6
会員増減・出席率	7
がん予防コラム	7
新会員紹介	8
文庫通信	8



人類に奉仕するロータリー





「経済と地域社会の発展」月間に思う

国際ロータリー第2710地区 パストガバナー 大之木 精二

ロータリー財団の6つの重点分野が、その儘ロータリーの特別月間に新設されたのは昨年からのことですが、その中でも特に取り組み難いのが「経済と地域社会の発展」ではないでしょうか。RIの資料に依れば、このテーマは3種類の活動に要約されるとあり、それは①地域社会の人々の能力向上②地域社会の発展を目指す専門職業人への奨学金支援③職業研修の3つです。

私達のロータリークラブが如何なる切り口でこのテーマに取り組むか、それは決して容易なことではありませんが、当面思い付く現実的なものとしてはRCC（ロータリー地域共同隊）があります。ロータリアンでない善意の人々が集まり、地域社会の生活の質を改善する為に自らの技能を生かしたボランティア活動を展開するRCCは、当第2710地区では比較的早い時期に着手して現在3グループが存続しているものの、正直なところ地域社会でその存在が評価される程のアクティビティがあるとは言えないのが実態です。

その責任は須らくロータリークラブが負うべきであります。

が、折角私達が生み且つ相応の歳月を経た奉仕団体ですから、これ迄の反省の上に立った再生を期しての強力な支援の提供は、今月のテーマに合致するものと考えます。これが呼び水となってロータリアンの関心が再燃して、新しいRCCの誕生に結び付くならば、難しいと思われた「経済と地域社会の発展」月間における古くて新しい取り組みが可能となるのであります。

しかし私達は、RCCに勝る共劣らない重大な命題を抱えていることを忘れてはなりません。それは日本のロータリークラブの90%以上が存在する地方都市の活性化問題です。久しく「地方の時代」「地方創生」が叫ばれていますが、地方は人口の流出と出生率低下によって深刻な人口減少期に入っており、それは活力の減退を招来してロータリーの存立基盤を揺るがすことにも繋ります。会員増強においても私達はこの現実にとのように対処すればよいのか、併せて考えてみるべき喫緊の命題であると私は考えています。



米山月間に寄せて

地区米山記念奨学会委員会 カウンセラー 天野 肇

「テキサスの野にひんがしや初日の出」

この句は、日本におけるロータリーの創始者米山梅吉が1918年ダラスを訪問した時詠んだものです。ダラスでは三井物産の社員でダラスRCの会員であった福島喜三次と邂逅し、福島からロータリーの活動を聞き、大きな感銘を受けたようです。福島は、1920年帰国直前にロータリークラブ国際連合会本部から「東京にクラブを新設する」ことを依頼され、帰国後米山を訪ね、人望ある米山に全権を託しました。1920年10月20日、日本初のロータリークラブ東京RCが誕生しました。東京オリンピック・パラリンピックの開催年には100周年を迎えます。1952年東京RCは、米山梅吉の功績を記念して

国際貢献の一環として「米山基金」を設立致しました。その後全国規模のロータリー米山奨学委員会を経て、1967年財団化を果たし、2008年の財団法の改正に伴い公益財団に移行しました。創設以来日本で学ぶアジアからの外国人留学生は、累計2万人に達しようとしております。

米山梅吉は、1868年（明治元年）江戸に生まれ、1946年78歳でこの世を去りましたが、ロータリーの創設者ポール・ハリスも1868年に生まれ、1947年78歳で亡くなっております。奉仕に生涯を捧げた日米二人の偉大な先達が同時代を生き、享年も同じことに感慨深いものを覚えます。



米山研修旅行報告



広島安佐ロータリークラブ
米山奨学生

ゲン, リン ティ ゴック

私は7月16日と17日の二日間、岡山県と島根県へ国際ロータリー第2710地区の奨学生の皆と研修旅行に行かせて頂きました。

16日に岡山県へ行き、そこで視力を失うという人生でとても苦しいことがあったにもかかわらず、人生を前向きに捉え、活躍している竹内昌彦さんに出会えたのは私にとって忘れられない出来事になりました。今まで、私は家族の愛情に囲まれ、学校へ行くことができ、充実した生活を送ってきました。しかしながら、今、世の中には身体障害者や学校へ行けない子供たちや、飢餓で亡くなる人もいると知り、自分がどんなに幸せであるかということに気付かされました。私は「困っている人に対して自分を生かすことができるのが立派な人です」とおっしゃった竹内さんの言葉にとっても感動しました。また、竹内さんの言葉を聞いて、私の父のことを思い出し、涙が止まらなくなりました。「人生の幸福はお金や名誉があることではなく、思い遣りを心掛け、困っている人がいたら助け、そして喜ばせることだ」と教えられていたからです。そして、竹内さんが目の不自由な人がどんなに困っているのか、どのようにして目の不自由な人を助けるのかを教えてくださいました。その体験は私にとって貴重な教訓となりました。これから、一生懸命勉強して、色々な活動に参加して、周りにいる身体障害者や困っている人を助けたいと強く思いました。

そして、その後に行かせて頂いた広い芝原や梅園があった後楽園も本当に楽しかったです。そこは蓮も稲も植えられている自然が多い所で、気持ちが落ち着きました。夜に松江市に着き、ホテルで宴会があったので、他の奨学生と多くの時間を共にし、良い仲間を作ることができました。その後、自由時間に皆と松江市内を見て回り、ボウリングをしました。とても楽しかったです。

翌日17日に松江城を訪れ、色々な歴史を教えてくださいました。そして、遊覧船に乗って、松江城を回り、新鮮な体験をすることが出来ました。午後は出雲大社へ行きました。旧暦10月(現在は11月)に日本全国の神様が集まる所だと聞いていたので、前からずっと行きたいと思っていました。日本の信仰や文化が反映されている出雲大社では色々なことを学ぶことができ、母国との違いを理解することができました。



そして楽しい二日間が終わりました。とても短い時間なのに、私は色々なことを学び、楽しむことができました。今回は第2710地区で、研修旅行に行かせて頂き、とても感謝しています。そして、奨学生の皆と話したり学んだりすることができて嬉しかったです。私が成長していく上で貴重な二日間となりました。これからも、このような活動に積極的に参加し、自分の世界を広げていきたいと思います。



宇部西ロータリークラブ
米山奨学生

張 文 晋

中国古くには「万巻の書を読み、万里の路を行く」という言葉があります。日本にも寺山修司が『書を捨てよ、町にでよう』というタイトルの評論を70年代に書いています。自己修行の一環として旅が出るのが非常に幸せな事と考えています。

初日、岡山盲学校教諭、竹内先生の講演を聞きました。先生は自分の見えない生活から見えるものについておっしゃってくださいました。私は福祉心理コースの出身ですから、先生の話に共感し、色々考えました。健常者として、ずっと障害者はただの不自由であり、不幸ではないと思っています。私たちと一緒に生きて行く権利があり、生き甲斐があり、社会に貢献する力があります。先生は能力の限り、国々の障害者を支援しています。自分の職業を奉仕し、もっと多くの方々が元気で笑顔を見えるように頑張っていくのがロータリーの精髓に至る所と認識しており、通じるところがあると思いました。

その後、日本の青空、緑の山を見ながら山陰に向かいました。長距離の移動ですが、ガイドさんはずっと立って、笑顔、魅力的な声で周り

の風景を紹介しました。皆、多少疲れた様子ですが、ガイドさんが全力で皆の頭を働かせてくれたため、歓声満載の移動時間でした。さすが日本の「匠人精神」です。自分の仕事を愛し、完璧を求めて、愛着を持っていて、卓越を求めていく理念でお客様に対し最大の満足を提供する、これは日本サービス業神話の源と考えております。

晚餐会で美味しい日本料理を頂いて、一泊して次の旅に出ました。次に目に入ってきたのは美しい国宝の松江城でした。いつも大和ドラマで見ていた甲冑が実物で現れ、凄く興奮しました。そして船での遊覧を終え、出雲大社で参拝しました。幸せは人類が生きて行く上での永遠のテーマとして、私も神様をお願いしました。最後に島根ワイナリーで美味しいワインを頂いて、製造工場を見学して素晴らしい研修旅行の幕を閉じました。

奨学生になってからたくさんのロータリアンと出会って、人生の遣り甲斐や行動を見直しました。特にロータリアンたちが身をもって教えてくれた「奉仕精神」は一生の宝物と考えています。

奨学生として、感謝の気持ちを心に留め置き、ロータリー精神をしっかりと理解し、日中友好と世界平和のために自分の力を尽くす覚悟をもって頑張っていきたいと思っています。



ロータリー財団100周年記念

第40回インターアクト地区大会報告

2016-17年度 国際ロータリー第2710地区 インターアクト委員長 梶田 滋

1. はじめに

第40回インターアクト地区大会は、清水ヶ丘高等学校インターアクトクラブ(IAC)がホストクラブ、呉南RCがスポンサークラブとなり、7月30日(土)～31日(日)の2日間、「つなげよう平和と奉仕の心」をテーマに、グリーンピアせとうちで開催されました。参加者は、田原ガバナー他来賓10名、インターアクト114名、顧問教師24名、提唱RC70名、合計218名であり、最近3年間で最も多い参加人数になりました。

2. 研修内容

田原ガバナーからは、今回のテーマはガバナー信条の「奉仕の中にこそ幸福(幸せ)と平和」の理念と本質的に同じである、「戦争のない平和、核兵器のない平和」を学んでほしいと挨拶されました。



1日目の研修では、大和ミュージアム館長 戸高一成様による「戦艦大和が伝えようとした平和へのメッセージ」、呉市総務部危機管理課主幹 上原健様による「自分の命を守るための「防災知識」」の講演が行われました。

戸高一成様からは、「良い歴史・失敗の歴史は自分で学ぶこと」「戦争や技術の歴史は体験者から直接聞けなくなっている」「資料をどのように残し伝えるか」「大和ミュージアムは事実を伝えるのみである」「考える資料は正確にする」「考える場にしたい」などについて講演が行なわれました。

上原健様からは、日常の平和として防災知識についての講演が行われました。「災害時はすぐに逃げる」「家の中にあるものが危険である」「災害が起こった時にはどこに助けを求めるか考えておく」「風呂の水を貯めておくなど平素の備えが大切である」などの話をお聞きました。

二つの講演を聞いた後、A～Lまでのグループに分かれ講演内容のまとめを行いました。戸高一成様の講演については、「正確な情報を得たい」「自分なりの意見を持ちたい」「考えることが大切である」などの発表が行われ、上原健様の講演については、「正確な情報を取り入れることが大切である」「普段から自分の身を守るよう考える」などの発表が行われました。インターアクトの皆さんは、2つの講演を真剣に聞き、自分のこととして考え、講演内容のまとめを行ったと思います。

2日目は各参加校のインターアクト全員が学校別にステージに上がり、自校の紹介を行いました。全員が参加者の

前に出る機会はなかなかなく、自分達の活動状況を直接伝えることができたので、大変良い企画と思いました。

次に、今年5月に行った指導者研修会の内容について、広島地区は如水館高等学校IACが、山口地区は防府商工高等学校IACが報告を行いました。指導者研修会は、広島地区と山口地区で実施内容に違いがあるため、今年度は研修内容を統一するよう当番校にお願いしようと思っています。

最後に、今年3月に行った韓国研修について、広島修道大学附属鈴峯女子高等学校IACが報告を行いました。ホームステイを通じて異文化に直接触れることで自分達が得たことを中心に報告が行われました。今回、私は韓国研修に初めて同行しましたが、参加したインターアクトの表情は、出発前と帰国後で大きく変わっており、異文化交流による心の成長を感じました。

閉会式後、大和ミュージアムに移動し12グループに分かれ館内の見学をしました。戸高一成様の講演を聞いた翌日のことであり、効果的な見学が行われたものと思います。今回の地区大会と館内の見学の内容については、8月1日の中国新聞に「大和」と呉の空襲学ぶ 広島・山口の中高生が交流」として掲載されました。



3. 終わりに

「戦争に対する平和」「日常の平和」がテーマであり、「平和」を自分のこととして考える有意義な地区大会であったと思います。また、参加したインターアクトには、研修内容だけでなく、このような大会を開催することの大変さを学んでもらうことも期待したいと思っています。

最後に、大会開催にご尽力いただきました、清水ヶ丘高等学校の皆様、呉南RC皆様には心からお礼申し上げます。どうもありがとうございました。





ロータリー財団100周年記念 地区指導者育成セミナー報告

2016-17年度 国際ロータリー第2710地区 地区代表幹事 橋本 満

残暑の厳しい8月最後の日曜日(8月28日)午後1時からホテルグランヴィア広島において「2016-17年度地区指導者育成セミナー」が、「ロータリー財団100周年記念」と銘打って、田原ガバナー主催で地区内会長、会員増強委員長、ロータリー財団委員長、地区関係者等272名が参加して開催されました。

セミナーは1部全体会議、2部会員増強・財団部門に分かれて進行了。ガバナーからは「ロータリー財団100周年」という記念すべき年にセミナーを開催できたことは、ガバナーとして身の引き締まる思いである。皆様のご支援とご協力をお願いしたい。各クラブの公式訪問を続けているが、各クラブの抱えている課題は、会員増強・ロータリー財団に対する知識、認識不足であると痛感している。セミナーで学んだことをクラブに持ち帰り、元気なクラブ運営の参考としていただきたい。」旨の挨拶がありました。

大之本精二地区研修リーダーからセミナーを受講する心構えなどの挨拶があり、基調講演に入りました。講師は天野肇パストガバナー、演題は「ロータリーリーダーシップの探求」として、リーダーとは・リーダーシップとは・ロータリーのダーの在り方・ロータリーにおけるリーダーシップ等につき、時代の英

雄・政治家・思想家などを例に分かりやすく話されました。天野様は、「リーダーシップとはその辺に転がっているものでもなく、力の顕示を表現するものでもない。職業人、社会人としてより高い行動基準、道徳基準を設定し、それに向けて努力し、関係するすべての人々に心からサービス(奉仕)することである。」と結ばれました。そして、4人のガバナー補佐がパネリストとして、リーダー、リーダーシップについて、パネルディスカッションがありました。1部最後にロータリーカードについて、第2ゾーンロータリーカードコーディネーター関博子さんより話がありました。このロータリーカードは地区、クラブ、地区委員会単位で決済ができる法人カードです。

2部は、土肥博雄 地区会員増強委員長の司会で「会員増強」についてパネルディスカッション等が行われました。また、財団部門は、松井敏 地区財団委員の司会で「ロータリー財団」について、地区補助金、グローバル補助金、ポリオ、奨学金、財団100周年の歴史等を議題に、活発な議論が行われました。最後に参加者のビアパーティで、大之本研修リーダーから「今回のセミナーは真に意義深いものがあつた、クラブに研修結果を持ち帰り徹底してもらいたい。」旨のまとめがあり、喉を潤しつつ親睦を深め、セミナーが終了しました。



ロータリー財団100周年記念 地区指導者育成セミナー 会員増強部門報告

2016-17年度 国際ロータリー第2710地区 地区会員増強委員長 土肥 博雄

国際ロータリー第2710地区2016-17年度地区指導者育成セミナーが行われました。部門別セミナー、会員増強部門では会員増強委員長である土肥から会員現況報告をし、続いてパネリストによる発表がなされました。パネルディスカッションのコーディネーターは地区戦略計画委員長である田村泰三パストガバナーが務められました。

まず、防府ロータリークラブから水津信之さんが、「戦略委員会の立ち上げ」について説明されました。迫力ある発表で会場は一瞬シーンとなった程です。次いで岩国西ロータリークラブからは八百谷俊昭さんによる「明るい未来特別委員会」についての紹介がありました。

福山東ロータリークラブからは川本晏聖さんが「会員満足度調査」について発表されました。これは地区のものを雛形にして独自のアンケート調査を行ったものです。田村泰三パ

ストガバナーは戦略委員会について話されました。

特別発言のトップバッターは元RI理事の南園義一パストガバナーが発表されました。「ロータリーの会員数は日本、米国、豪州で減少しているが、ドイツで22%、インドで55%、ブラジルで10%、韓国で28%、台湾では実に101%の増加がみられている。最も台湾では奥様も入れている。またロータリーの活性化については自主的で柔軟なクラブ運営が不可欠である。」と強調されたのが印象的でした。「従来通りでは破綻しますよ。」との警告もありました。

次いで指名された大之本精二パストガバナーは「戦略計画を実施して体制整備をすることで、次の段階と地域にどう貢献するかが問題である。なぜ会員を増やさなくてはならないのかとの問いがなくてはならないのです。この問題は矮小化してはいけません。手段を目的と勘違いしてはいけませんとい

う事です。」と手厳しい意見を頂戴しました。

また最後に発言された田原ガバナーは「ガバナー公式訪問で何時も言っているのですが是非クラブの健康チェックを行って欲しい。1)クラブの経験、2)奉仕、3)会員増強、4)例会の地域の人々を招待するなど公共イメージを高めて頂き

たい、メディアの招待も良いでしょう。5)運営に当たってはMy Rotaryを使って下さい。等々あります。」と締めくくられました。

手前味噌ですが、今回のパネルディスカッションは心に残るものでした。



ロータリー財団100周年記念

地区指導者育成セミナー ロータリー財団部門報告

2016-17年度 国際ロータリー第2710地区 ロータリー財団委員長 伊賀 訓之

1917年当時のロータリー会長、アーチ・クランフが「世界でよいことをするために」基金を設立しました。最初は26ドル50セントの寄付からはじまり、長い歳月を重ねて10億ドル以上の基金になり、1983年イリノイ州法のもと、非営利法人を設立し、その法人設立定款の目的に「慈善的(人道的)、教育的目的のためにのみ」組織され運営するものと定められております。

ジャームRI会長エレクトとバネルジー財団管理委員長は、共同で2016-17年度のロータリー全体の目標を定めました。継続性を図るため、これらの目標を立てるにあたってはRIの2015-16年度目標を参考にするとともに、ロータリー財団管理委員会が承認した財団の3カ年優先項目と目標を盛り込みました。

優先項目①クラブのサポートと強化

目標1:最近の退職者および若い職業人に働きかけて、会員増強を図る

目標2:会員の積極的参加とクラブの充実化を図り、会員維持率を向上させる

目標3:会長賞へのクラブの参加を増やす

目標4:ロータリー財団に対するロータリアンの知識、参加、寄付を向上させる

優先項目②人道的奉仕の重点化と増加

目標5:永久にポリオを撲滅する

目標6:年次基金へのクラブ寄付平均を高める

目標7:ポリオ撲滅への支援を続けるために、クラブ、地域社会、政府からの寄付を増やす

目標8:財団の補助金と6つの重点分野を通じて、ロータリーの人道的奉仕の質と影響を高める

目標9:青少年や若きリーダーの支援、およびロータリーの6つの重点分野に関連したプログラムや活動において持続可能性を高める

優先項目③公共イメージと認知度の向上

目標10:広報を通じてロータリーに対する人びとの認識を高める

目標11:「世界でよいこと」を続けてきた100年の歴史における財団の功績、特にポリオプラスの成果に対するイメージと認識を高める

上記、優先項目と目標について説明し、各クラブに財団についての基本的理念の理解を求めました。

■現況報告

地区R財団委員 久笠 信雄 (R財団部門配布資料P9~21参照)

●2016-17年度地区目標

- ・ポリオプラス基金 35ドル以上/1人
- ・年次基金 150ドル以上/1人
- ・恒久基金 ベネファクター1人以上/クラブまたは恒久基金への寄付1,000ドル以上/1クラブ

[ロータリーカードへの理解と普及]

グループ毎の財団勉強会について11月から12月について検討

●DDF使用について

- ・地区補助金 55,000ドル申請 19クラブ採用
地区補助金奨学生 三澤 志織(広島西RC推薦)
- ・グローバル補助金 30,000ドル申請
グローバル補助金奨学生 西山 秀平(広島東南RC推薦)
グローバル補助金奨学生 石川 祐実(徳山RC推薦)

■補助金管理セミナー

①地区補助金 地区R財団委員 古澤 宰治(同P22~25参照)

- ・ロータリー財団の使命に沿っていること
- ・地域のニーズ調査に基づく計画年度、実施年度
- ・プロジェクトにロータリアンが参加する
- ・地区の指針に沿っていること

②グローバル補助金 地区R財団委員 蔵清 正一(同P26~28参照)

- ・6つの重点分野の1つ以上に該当すること

③ポリオについて 地区R財団委員 三宅 浩史(同P29~30参照)

- ・1人35ドル目標 不足分はDDFから補充

④奨学金について 地区R財団委員 松本 治彦(同P31~32参照)

- ・グローバル補助金奨学生と地区補助金奨学生について

⑤財団100周年の歴史について 地区R財団委員 三吉 孝治

- ・ビデオ「人々の心に触れた100年」各クラブに案内済

【国際ロータリー第2710地区 2016-17年度会員増減・出席率(2016年8月度)】

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月末日	内女性	本年度入会	本年度退会
1	長門	90.21	27	27	5	0	0
	下関	84.18	50	51	1	1	0
	下関中央	80.78	31	31	6	0	0
	下関東	80.14	55	56	2	2	1
	下関北	92.47	42	42	0	1	1
	下関西	91.44	35	35	1	0	0
	計	86.54	240	242	15	4	2
2	萩	95.42	54	55	0	1	0
	萩東	99.38	20	20	1	0	0
	美祿	85.61	23	24	0	2	1
	小野田	83.56	35	36	2	1	0
	宇部	94.05	46	46	3	0	0
	宇部東	77.17	14	14	1	0	0
	宇部西	89.64	55	55	3	0	0
	計	89.26	247	250	10	4	1
3	防府	98.64	54	56	0	2	0
	防府北	96.88	17	17	1	0	0
	防府南	87.66	34	36	6	2	0
	山口	87.16	55	57	4	2	0
	山口県央	96.93	32	33	1	1	0
	山口南	95.03	43	44	4	1	0
	計	93.72	235	243	16	8	0
4	光	96.50	47	48	0	1	0
	周南西	95.51	45	50	4	5	0
	徳山	96.25	45	50	1	5	0
	徳山セントラル	94.76	26	27	0	1	0
	徳山東	93.88	52	51	0	0	1
	計	95.38	215	226	5	12	1

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月末日	内女性	本年度入会	本年度退会
5	岩国	81.12	61	63	0	2	0
	岩国中央	89.00	42	41	3	0	1
	岩国西	86.48	59	60	4	1	0
	柳井	100.00	33	33	2	0	0
	柳井西	95.67	27	27	2	0	0
	計	90.45	222	224	11	3	1
6	広島	99.46	119	125	1	8	2
	広島安芸	97.63	39	39	2	0	0
	広島安佐	93.98	24	25	1	1	0
	広島東	99.62	99	103	6	5	1
	広島北	100.00	86	94	0	8	0
	広島陵北	97.98	52	52	3	0	0
	大竹	91.81	33	35	0	2	0
	計	97.21	452	473	13	24	3
7	広島中央	100.00	79	78	7	0	1
	広島廿日市	87.04	36	36	1	0	0
	広島城南	99.63	54	56	3	2	0
	広島南	99.46	87	90	0	3	0
	広島東南	100.00	95	98	11	4	1
	広島西南	100.00	65	67	3	2	0
	広島西	100.00	84	84	0	1	1
	計	98.02	500	509	25	12	3
8	江田島	94.94	17	18	1	1	0
	東広島	98.49	33	33	3	0	0
	東広島21	82.64	16	17	3	1	0
	呉	92.80	68	67	1	0	1
	呉東	92.71	31	31	0	0	0
	呉南	91.77	57	57	3	0	0
	西条	98.58	41	41	3	0	0
	計	93.13	263	264	14	2	1

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数				
			年度初7/1	当月末日	内女性	本年度入会	本年度退会
9	広島空港	89.06	24	26	2	2	0
	因島	92.55	20	19	0	0	1
	三原	90.19	58	59	1	1	0
	尾道	83.76	79	81	2	2	0
	尾道東	89.09	49	52	2	3	0
	瀬戸田	83.30	6	6	0	0	0
	竹原	92.56	36	36	4	0	0
	計	88.64	272	279	11	8	1
10	府中	86.44	29	29	0	0	0
	福山	95.55	79	81	0	2	0
	福山東	83.00	50	50	3	0	0
	福山丸之内	96.67	33	33	1	0	0
	鞆の浦	82.07	24	24	0	0	0
	福山REC2710*	100.00	21	21	2	0	0
	計	90.62	236	238	6	2	0
11	福山赤坂	84.27	46	47	7	1	0
	福山北	95.83	44	45	0	1	0
	福山南	88.20	56	57	2	2	1
	福山西	91.86	44	44	4	1	1
	松永	89.92	53	52	2	0	1
	計	90.02	243	245	15	5	3
12	吉舎	98.53	17	17	0	0	0
	三次	88.12	40	41	0	1	0
	三次中央	94.87	42	44	5	2	0
	庄原	82.35	35	34	4	0	1
	東城	92.88	20	20	1	0	0
	計	91.35	154	156	10	3	1
	第2710地区計	91.89	3279	3349	151	87	17

※正式名称「福山ロータリーエクラブ2710」



がん予防コラム②

がんはどうして起こるのでしょうか？

地区がん予防推進委員長 藤村 欣吾

前回がんは細胞が自律的に増殖した状態であることをお話ししました。

言い換えれば細胞増殖のアクセルが常にオンの状態になっているか(がん遺伝子の活性化)、ブレーキが故障し細胞増殖を止められず、細胞が増殖し続ける状態です(がん抑制遺伝子の不活化)。なぜこのようなことが起こるのか詳細は不明です。“がん”は長い年月を経て発症するものです。正常細胞にがんを引き起こすような刺激が作用すると(たとえば発がん物質)、細胞核の遺伝子に変異が誘発されその結果変異細胞ができます(イニシエーション)。その後この細胞内の変化を固定化し増殖が促進する段階(プロモーション)があります。さらにこの細胞の悪性化、自律性増

殖が進み成長する段階(プログレッション)を経て“がん”と診断されるようになります。すなわちがん細胞はいくつかの遺伝子異常が時を経ながら累積した結果生まれることになり(多段階説)、1個の細胞が“がん化”し症状を示し、目で明らかになるには平均10~20年の期間が必要とされています。

何が遺伝子変異を起こすのでしょうか？ 一部のこれら遺伝子異常が明らかな家系では、家族性の腫瘍発生(乳がん、卵巣がん、大腸がんなど)が見られあらかじめ遺伝子診断が可能です。しかしほとんどは環境因子・生活習慣や宿主因子としてウイルス、ヘリコバクターピロリ菌などの感染や年齢、性別、人種、遺伝因子などが相互に作用し遺伝子変異を引き起こしやすくすると考えられています。

新会員紹介



八山 光秀
徳山RC
2016年8月4日
石油化学



久野 耕一郎
徳山RC
2016年8月25日
商業銀行



小野 晃
徳山東RC
2016年9月7日
業務請負業



村元 真澄
岩国西RC
2016年8月19日
建設業



森實 撰郎
広島RC
2016年8月2日
総合化学工業製品製造



大原 武彦
広島RC
2016年8月2日
証券業



佐々木 直義
広島RC
2016年8月2日
調味料製造



田久保 普三
広島安佐RC
2016年8月18日
税務代行業



国広 敏彦
広島東RC
2016年8月3日
土木建築



新谷 欽史
広島北RC
2016年8月18日
鮮魚仲卸



堤 大地
広島北RC
2016年8月18日
建築防水工事



川上 武
広島北RC
2016年9月1日
信用金庫



木谷 義徳
大竹RC
2016年9月9日
溶接



花島 司
広島城南RC
2016年8月19日
舗装工事



高藤 孝一
広島城南RC
2016年8月19日
人材派遣



枝村 博
広島東南RC
2016年8月1日
情報通信サービス事業



檀上 敏郎
広島東南RC
2016年8月8日
管工事業



部谷 俊雄
広島西RC
2016年9月1日
商業銀行



角 秀司
江田島RC
2016年8月4日
金属加工



岡田 雄幸
広島空港RC
2016年8月6日
障害者福祉施設



金光 昇
三原RC
2016年8月23日
土木



奥園 保幸
三原RC
2016年9月6日
為替銀行



松尾 優子
福山REC2710
2016年9月1日
不動産賃貸業



尾崎 純子
福山REC2710
2016年9月1日
健康食品販売



坂本 真実
福山赤坂RC
2016年9月5日
紳士服・婦人服販売



三浦 弘之
三次RC
2016年8月18日
建設業



新会員名
所属RC
入会日
職業分類

文庫
通信

348号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万4千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご利用願います。以下資料のご紹介を致します。

《 地区大会講演から 》

「一服の叢智」	ビチャイ・ラタクル	2015	12p	(D.2520地区大会記録誌)
「ロータリーの心」	千 玄室	2016	2p	(D.2650地区大会記念誌)
「もう一度ロータリーを・・・」	小船井修一	2015	8p	(D.2520地区大会記録誌)
「ロータリーを楽しもう」	河本英典	2016	2p	(D.2650地区大会記念誌)
「日本の文化・伝統と教育が、拓く未来!」	櫻井よしこ	2016	11p	(D.2730地区大会記録誌)
「繋がる夢」	シルネン・ブヤンジャルガル	2016	3p	(D.2790地区大会記念誌)
「スポーツの可能性」	為末 大	2016	8p	(D.2590地区大会の記録)
「東洋スロトレー老いない体のつくり方」	田中貴恵	2016	4p	(D.2780地区大会報告書)

[上記申込先] ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階
http://www.rotary-bunko.gr.jp/

TEL (03)3433-6456・FAX (03)3459-7506
開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

国際ロータリー
第2710地区 事務局

〒732-0822 広島市南区松原町1-5 ホテルグランヴィア広島6F
TEL:082-506-0055 FAX:082-263-2323 E-mail:info@ri2710.com URL:http://ri2710.com/